

SHIN CLUB70

(株)辰 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS渋谷ビル5F tel/03-3486-1570 fax/03-3486-1450 URL:http://www.esna.co.jp



C-ONE 1F-2F 撮影:阿野太一

今月のトーク/monthly talk

経 験

写真はこのたび竣工した、SOHO型住宅「C-ONE」の1階スタジオ、そして2階の住居スペースへの回廊です。建て主のグエナエル・ニコラ氏は15年前に来日し、日本で活躍中のフランス人デザイナー。携帯電話会社「au」のロゴや、イッセイ・ミヤケ、タグホイヤーなどの店舗デザイン、ル・フードゥ・イッセイなどの香水ボトルのデザインで知られています。建築設計は既知の友人内海智行氏(ミリグラムスタジオ)に、構造設計は金田充弘氏に協力を仰ぎました。

「設計の内海さんはとても信頼している。こちらの言うことが全てわかるだけでなくさらに2倍、3倍にも答えを返してくれる人」とニコラ氏。

建物には、ニコラ氏の新しいアイデアが盛り込まれています。躯体は鉄骨造で、廻りをガラスの壁が囲んでいます。外からも、中からもよく見えるガラスの箱は、いつも愛する家族を視野に入れていたいニコラ氏の思いが伝わってきます。新しい水栓設備、そこがトイレとはすぐにはわからない扉など、使い方を教えてもらわなければ、わからない機器の一つひとつまでニコラ氏はデザインしています。

それは、ニコラ氏が、人の生活の仕方、そのものをデザインする人にほかならないからです。

人が初めて新しいモノを手にするとき、それはいったい何か、という戸惑いや驚きが生まれます。どうやって動かそうか、どれが正しいやり方か、脳はフル回転します。そしてわかったとき、「なるほど」という感動がそ

こに生まれます。「面白い、楽しいね」というワクワク感が、その品物の価値を高めます。そして誰かに伝えたいくなります。身の回りにあふれる雑貨だけでなく、照明、インテリア、いろいろなものに波及して、ニコラ氏がそれを包む建築空間まで、デザインの幅を広げたのは当然のことでしょう。

私たちは、あらゆる場面で「普通は」という言葉でこれまで何でも片付けてきたのではないのでしょうか。もちろん、手間もお金もかかるかもしれませんが、新しいモノを作り出すことは、大事なことです。普通という言葉に表されるモノも「最初」があったはずなのに、そこにあるのは、「思考停止」という代償かもしれません。

今、「普通」で解決できなくなった社会の様々な問題に対し、一人ひとりが自分で答えを出すことを求められています。「Experience」という言葉でニコラ氏が表現する、「経験する」ことそのものが、発見であり、贅沢であり、文化です。芸術の国、フランスから来たデザイナーの厳しい仕事に、施工者も新たな経験をさせていただいた、と感じます。

建て主と設計者だけでは素敵な家は建ちません。施工者もその現場に立ち会っている当事者です。新しいアプローチの建築手法、その意味を理解し、応ずることのできる施工者は、それほど多くはないだろうと実感しています。

C-ONE 新築工事



建築からプロダクトまでシームレスに一体化する空間

インテリアを「行為」として建築化する。透明なガラスに巻きついた斜めの回廊は、こうしたイメージを具体化する要素として、人の移動を「空間」へと昇格させながら、この建築の楽しさを作り出している。私はこの空間定位の知覚に変化を生じさせる主要な仕掛けを、構造的にも意味にある存在にすることが、(プロダクトから建築まで全体性を帯びた)ニコラ氏のイメージを整合させる上で重要だと考えた。

その上で、階層を跨ぐ瞬間としてのスラブを極限まで薄くして、分断された上下空間を表裏一体の関係で結びつける。こうした骨格としての建築の力強さが、抽象化された均質なインテリアと一体化していることが、この建築の特徴だと言える。(内海智行)

所在地: 渋谷区
 構造: S造+一部RC造
 規模: 地上3階 地下1階
 用途: スタジオ併用住宅
 設計: 建築
 基本デザイン: グエナエル・ニコラ(キュリオシティ)
 建築設計: 内海智行(ミリグラムスタジオ)
 +グエナエル・ニコラ(キュリオシティ)
 構造: 金田充弘 設備: タクトコンフォート
 設計協力: 佐藤知巳建築設計事務所



①北西側全景。1階オフィスであるスタジオから斜めの回廊が2階の住居部分へと繋がる。反対側も同様の回廊が取り巻く。仕事のオンとオフが緩やかに切り替わるとニコラ氏は言う②北東側回廊。1階天井2階床のスラブの厚さは焼く60mm(25mmの鋼板と32mmの床仕上がり)。端部で釣って限りなく薄くしている③3階リビング。床は桐。家具は必要に応じて組み合わせを変えられる。右の建物の中央のコアが設備のシャフトであり、クローゼットやトイレが収まる④3階キッチン・ダイニング。正面のキッチンはオリジナルデザインの水栓設備を備える。どれも蛇口か一目見ただけではわからない⑤地下1階。オフィスの打ち合わせ室。ドライエリアが出入り口となっている



施工現場から

この建物では、設備が収まる部分おw建物中央のコアに集中させている。躯体は鉄骨、鉄板を現場で溶接し、設置する作業に神経を使った。また壁面を構成している1枚650kgというガラスをはめ込む作業も、狭い住宅地では気を使った。近隣のご理解、ご協力なくしては工事はスムーズに運ばなかっただろう。無事完了してほっとしている。

(現場担当主任: 鯨津)



この号は、発行時のレイアウトを変更いたしました。「社長の新年のご挨拶」を割愛させていただきました。



グエナエル・ニコラ (Gwenael Nicolas) profile

1966年 フランス生まれ
 パリのESAGでインテリアデザイン学士取得
 1991年 ロンドンのRCA(ロイヤル・カレッジ・オブ・アート)でインダストリアルデザイン修士取得。来日
 1998年 キュリオシティ設立。
 現在、インダストリアルからインテリア、家具、建築まで幅広く活躍している。

主な作品

第39回東京モーターショー「日産ブース」、ソニーショールーム、タグ・ホイヤーショップ、 プリーツプリーズ(イッセイ・ミヤケ)NY, Paris, 青山店、カッシーナ・イクスシー「ブーメラン」シリーズ、「au」のロゴデザインなど。

—今月は、C-ONEのオーナーであり、デザイナーでもある、グエナエル・ニコラさんにお話を伺います。

—建物のコンセプトをまずお聞かせください。

ニコラ: (共同設計者の)内海さんとは「どこまで建物の存在感をなくすことができるのか」を一番話し合いましたし、大事にしたかったですね。素材やプロセス、スケールが極力表に出ないようにしたかった。そういうものがわからないほうが面白いでしょう。普通の建築はいろんな要素、例えば、水道、電気などのエレメントが出てくる。私はその情報をなくしたかった。

そもそも最初のデザインで、細部までデザインし、「いいですね、これで行きましょう」と決まったわけですが、その後、いろいろな理由で建築では変更が出てくる。私は長年プロダクトデザインの仕事をやっていますが、プロダクトでは、そんなことはありえない。最初決めたイメージに近づくまでやり通す。モノの機能をきちんと決めてからやっていくんです。だからすごく辛かった。

—なぜですか。

ニコラ: 最初は私も建築のことわからないでしょう。途中から「これは必要」「あれもできない」といろんな変更を求められました。でもそれは、私の中ではあり得ないこと。「今までそうだったから」とか「普通はこうだから」と、建築はその「当たり前」ということが多すぎるのではないだろうか。でも僕はそれをストップさせたかった。プロセスを僕自身、勉強したかったしね。

—現場でいろいろ変更することで、最初のものからどんどんかけ離れていく。そういう、デザインに対する妥協はいやだったということですね。

ニコラ: 3年前に土地を買ったとき、既に作りたいシナリオがあった。どういう敷地かは基本的に関係ないのです。「こういう生活をしたい」という前提があるのです。

ですから、2年前に作った模型からはほとんど変更がない。まず、3Dで空間を作りたいと思いました。普通、建物は扉を開けると、次のビュー(視界)が見えるでしょう。階段もそう。でもこれは、斜めの回廊で建物を上下し、上からでも下の階が見える、シームレス(継ぎ目なし)なものを作ったのです。徐々に景色が変わるような、そういう建物です。

—具体的に言うと、どういう点がシームレスですか。

ニコラ: 第1に形。今、言ったように建物内を移動するには、回廊を使って、次第に景色が変わっていくスパイラルな構成になっています。シフトしていくのではないのです。

第2に素材。外のファサードは線が見えないでしょう。全部シームレスで鉄板を溶接したものです。壁も外と中が同じテクスチャーになるよう、オリジナルのメラミン素材を作り、統一しました。

第3に、インテリアと建築。建物の形とインテリアやプロダクト、例えば水栓設備がリンクしているのです。オリジナルデザインの水栓は、水道に見えないでしょう。それから、ソファの寸法とインテリアの寸法を、全部合わせて完成させています。今までの建築は、分けているでしょう。「スケルトンにしました、オープンにしました、はいどうぞ」という感じ。そうではなくて、最初から

全部考えてデザインしています。

—それは、デザイナーとしてのニコラさんの真骨頂というか、ある意味、完結した建物を作ろうとなさったということですね。

ニコラ: そう。僕は一つのプロジェクトで、全てをデザインするのが好きです。インテリアデザインをするときも、看板のロゴやショッピングバッグまで、全部決めたい。そうすることで、全体のストーリーの中に強弱を付けられるから。ばらばらにデザインすると全部が頑張りすぎてしまうのです。

昔から建築をやってきた人の仕事は、とても卓越しています。プロフェッショナルです。では、これから建築を始める僕は、どういうアプローチをするか、自分なりに考えるわけです。言葉で説明するにはむずかしい。ではポイントは何か。それはプロダクトと同じようなプロセスを取ること。

建築ではなく、「どういう生活がしたいか」というところから、コンセプトが生まれる。だから極端に言えば、建物の形はどうでもいい。もちろんコンセプトによる必然的な形状というはあるけれど、コンセプトのある箱を作って、中は住み手の自由ということには、僕は興味がないんです。

—人間の動線そのもの、生活の方法を大事にする建築家はいらっしゃいますが・・・

ニコラ: そのことは、ディスカッションしたね。でも、デザインのプロセスが、建築家とプロダクトデザイナーは根本的に違うの。

建築家はサービスをする。ユーザーが何を欲しいのか、コミュニケーションで変えていくでしょ。プロダクトデザイナーは、基本的にそれはできない。だって不特定多数の皆が何をほしいか、なんてわからないじゃない。だから常に新しいものを考え出さなければならない。プロダクトデザイナーは、皆が気づいていないことを考える。そういうプロセスを建築でやりたかった、ということです。

—いわゆる、プロトタイプを消費者全体に向けて作ろうというのではないのですか。

ニコラ: 全然違う。自分たちがどういう生活がしたいか、何をしたいかを考えてデザインしたもの。別の人たちのためには、また違ったデザインがふさわしいということもある。

—そこまでオリジナリティにこだわるには、どんな理由がありますか？

ニコラ: 僕はずっとコマмерシャルの仕事をしてきました。コマmercialはパブリックスペース。プライベートとは、エクスペリエンス(経験)が違うでしょう。モノを使うときは、一人一人皆違う。そのモーメント(瞬間)のデザインが大事なんです。そのデザインこそが僕のテイストなんですよ。

—どうもありがとうございました。



二月十日(木)
北赤羽の駅は、高架線になつてい
る。北に荒川、南東に新河岸川と
二つの川に挟まれ、改札口前を通
り抜ける風に毎朝身を切られる
思いだ。「U北赤羽」の現場。地上
一〇階建てのマンションの工期は、
一〇ヶ月。今日は、根伐と既存杭
のはつりを行う。
作業は四時過ぎには滞りなく終
わり、現場事務所に戻る。事務所
は駅の反対側の古い木造アパート
の一階にある。今日は月一回の定
例の全社会議が十九時から本社
であるので、いつもより早めに事務
処理を済ませ、駅に向かわなくて
はならない。突然、現場の土工か
ら電話が入った。
「隣が、火を噴いてるんです。」
急いで現場に戻ると、隣の温泉保
養施設建設予定地の掘削穴から、
勢いよく火が噴出している。いった
い何が起きたのか。一年前から掘
削作業を続けているようだが、そ
こから噴出した天然ガスに何かの
火が引火したらしい。ものすごい
数の消防車があつたという間にやっ
てきた。二〇台から四〇台もいた
だろうか。駅前の通りから、北側
に向かう道を折れ、うちの現場の
前を通り過ぎて、奥の河川敷側の
火災現場に向かつて、ぎっしりと

もまだ火は収まっていな
い。今日は祝日。作業は休みだが心
配で現場に向かった。近隣住民の
方たちが避難しているという自治
会館にお茶の差し入れに行く。実
は、マンション建設には近隣の反対
も多く、N所長が最初に現場に赴
いたときは、反対住民の手でピケ
が張られて現場には入れなかつた
くらいだ。話し合いで工事は始め
ることができたのだ。自治会館
では二〇人くらいの顔なじみの住
民が心配顔で休んでいた。お茶を
持つていくと喜んでくれた。夕方、
出火から丸一日たつて鎮火した。
東京消防庁は噴出したガスはメタ
ンと断定した。夜になって住民の避



内海 晃司
隣の現場で火災発生
先が読めない不安

関係車両が並んだ。火柱は二〇m
の高さにも及び、消火剤がヘリコプ
ターからまかれたりしたが、火は
収まる気配がない。幸い近隣に飛
び火するような建物もない。しか
し、放水であたりは水浸しだ。
夜七時には周辺の道路はすべて封
鎖された。いったいどうなるのか見
当もつかない。統括するN所長も
こんなことは初めてだと言った。
二月十一日(金)
ガスは夜中燃え続け、朝になつて

難勧告は解除された。
二月十二日(土)
根伐の床付けと分電盤のタイマ
ー交換の作業だけ行った。火災現
場は警察と消防が取り調べをして
いる。
二月十四日(月)
工事を再開した。根伐床付け、
はつりがらの片付け。杭頭処理。
山留めの穴にたまった水を排水す
るためにポンプを増量する。明日
の捨てコン打設準備のため、水中ポ
ンプを作業終了後も稼働すること
になった。火災現場では消防関係
の車がしばらく常駐するようだ。
いつまで続くのか、こちらの作業は
はかどらず先が読めないで辛い。
二月十五日(火)
根伐床付け、砕石敷き、捨てコン
打設合番、捨てコン打設、コンクリ
ートならし。
二月十六日(水)
雨のため現場作業は中止。
二月十七日(木)
地足場組み立て、ゲート部分変
更。やっと通常のペースに戻った。
仮設材の運びこみも行い、明日は
次のステップに進める。
ボーリング作業の怖さを痛感した
一週間だった。

1975年生まれ 神奈川県出身
東海大学工学部金属材料学科
修了
不動産会社企画開発部を経て、
辰の設立に参加する。
趣味：高校時代は名門付属高校
でラグビーに熱中。

担当した主な物件(設計者)
岡本の家、U芦花公園、C-Ho
use(芦原太郎)ほか。

TOPICS/INFORMATION

「小池精米店 新築工事 地鎮祭」 渋谷区 12月23日

裏原宿の 트렌ディな街に建つ、昭和
5年創業のお米屋さんのビル。
1階精米場、店舗。2階店舗、3、4階
オーナー宅。

構造:RC造 地上4階
用途:店舗+住宅
設計:上松 佑二
完成予定:2006年10月



「F邸 新築工事 地鎮祭」 目黒区 12月23日

閑静な住宅街のゆとりのある邸宅。
免震構造の住宅である。

構造:RC造 地上3階
用途:専用住宅
設計:ICU+
長田直之一級建築士事務所
着工予定:2006年3月



「(仮称)岡部医院新築工事」 板橋区 12月17日

古くからの代々お医者様の診療所の建替え工事です。
構造:RC+S造 地上3階
設計:株式会社石田敏明建築設計事務所
完成予定:2006年8月末

「C-ONE」が多数の雑誌に掲載されています

「新建築」1月号をはじめ、以下の雑誌です。ぜひご覧ください。
「日経アーキテクチュア」2006 1-9新春特別号 巻末Book Next-A、
「Casa Brutus」2月号、「AXIX」2月号、
「I'm Home」(季刊)1・14発売号、Seven Seas 3月号

編集後記

・大雪が各地で被害を出しています。雪おろしは重労働で危険な作業であり、一日も早い天候の回復を祈るしかありません。
人間の力の及ばない大自然の驚異を、今年もまた見せつけられています。

